

みなさま、お晩でございます。国土交通省まちづくり推進課官民連携推進室で室長を務めております中村と申します。今回はこのような場にお招き頂き、大変ありがとうございます。全国的に少子高齢化が進んでいることを受け、国土交通省では、「コンパクトシティ+ネットワーク」というまちづくりを進めております。これは、にぎわいの拠点となる街の中心市街地と、それ以外の駅周辺の拠点とを公共交通で結び、生活利便性が高く活力のあるまちづくりを進めようというものでございます。仙台市では、このほど仙台地下鉄東西線が開業し、既存の南北線と併せて、十字型の公共交通が仙台市内の各地域を結ぶことになりました。東西線各駅では、駅周辺を拠点としたまちづくりやパーク・アンド・ライド駐車場も整備するなど、こうしたコンパクトシティ+ネットワークの在り方を具現化したまちづくりを進められており、今後も公共交通の利便性がより一層高まるとともに、周辺地域ともつながった新しいまちづくりが進められることが期待されます。

こういった、これからのまちづくり政策に、地域住民や事業者など、民間の皆様力は欠かせません。

国土交通省では、このほど「新たな時代の都市マネジメント小委員会」を立ち上げまして、これからの都市政策について議論も進めてきました。その中で「中間とりまとめ」で報告されておりますが、その中でエリアマネジメントは重要な取り組みの一つとしてとりあげております。さらに、都市再生特別措置法に基づいた都市再生推進法人の指定により、民間のまちづくり団体がまちづくりに深く関われる仕組みも作ってきたところでございます。このような制度の活用を推進したまちづくりが発展することを期待しております。特に仙台市でも、地下鉄東西線 WE プロジェクトなど、市民の立場でのまちづくりや人材育成が進められています。こうした人材がどんどん増えて、地域が活性化する、こういったまちづくりは今後重要だと思えます。

最後になりますが、エリアマネジメントに対して重要な役割を求められている中において、今回このシンポジウム開催は時宜を得たものであり、主催されております仙台駅東エリアマネジメント協議会の皆様、小林先生、保井先生、御手洗先生はじめ学識経験者の皆様、準備・調整でご協力頂いている昭和株式会社さま、共催者のみなさま、仙台市及び関係者のみなさまに敬意と御礼を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。